

(7) 向隅 仲間はずれにされて悲しむこと。

(8) 瀝情 事情を述べる。

1-13-17

国王尚豊の、皇太子あての進貢の箋(一六三八、一〇、二〇)

琉球国中山王臣尚豊、誠忻誠忭、稽首頓首して上言す。

伏して以うに、皇天は眷佑し、景運は弘開して大本は益々隆く、臣民は忻戴す。敬んで惟うに、皇太子殿下は寛仁にして毓徳し、敬謹して存心す。万世の洪図を嗣承し、重熙の宝曆を寅奉す。是を以て貞符は協応し、万邦は永寧なり。臣尚豊、海国に僻居し遠く藩維に処りて、恩育窮まり無きを荷蒙するも、補報を伸ぶる莫し。藩国、土産もて進貢して芹曝の微忱を奉献し、仰いで前星を望み千秋の寿を敬祝す。瞻仰し激切屏營の至りに任うる無し。謹んで箋を奉り貢を称して以聞す。

崇禎十一年(一六三八)十月二十日 琉球国中山王臣尚豊、謹んで箋を上る

注 (1) 洪図 大きなはかりごと。

1-13-18

国王尚豊の、進貢の表(一六四〇、二、□)

琉球国中山王臣尚豊、誠懼誠忭、稽首頓首して上言す。

伏して以うに、天、下民を佑け、四時序ありて風雨順い、五穀熟して民人育つ。恭しく惟うに、皇帝陛下、天を承け命を受け、字内に君師たり。相して以て之を奠め、和して以て之を安んず。是を以て、克く天心を享け、永く宝曆を膺け、仁恩を四海に溥め、太平を万年に建つ。臣尚豊、海藩に僻居し、聖育窮まり無きを荷蒙するも、能く補報する莫し。臣国、土産もて進貢して芹曝の微忱を奉献し、紫宸を仰いで三祝し、聖寿の以て天と斉しきを祈る。天を瞻み聖を仰ぎ激切屏營の至りに任うる無し。謹んで表を奉り貢を称して以聞す。

崇禎十三年(一六四〇)二月 日 具職 謹んで上表す

注 (1) 二月 日 この時の咨文(二〇一三)の日付は二月初二日である。

(2) 具職 具臣は謙讓語。員数に備わるだけの臣の意。具職もこれに同じ。